



旧作



きけ、わだつみの声

学問への志、家族への愛、生きることをひたすら望みながら無念にも死んでいった青年たちの遺した言葉は、過去のものではなく、今に生きる私たちにひしひしと訴えるものがあります。二度とふたたびこのような悲劇がくり返されないことを願つて、今年も「わだつみのこえ記念館」による特別展示「戦没学生遺稿展」を開催します。

同時に、ホールにおいては、学生・兵士たちが投げ込まれた戦場の実相を理解するために、館所蔵の映像ドキュメントを上映します。

『きけ わだつみのこえ』の一九四九年発刊以来の各版、関連ポスターなども、十八台のケースと壁面パネルを使って展示します。

同様に、ホールにおいては、学生・兵士たちが投げ込まれた戦場の実相を理解するために、館所蔵の映像ドキュメントを上映します。

記念館の所蔵品は、「きけ わだつみのこえ」に収録されている方々ばかりでなく、館ができるあとに寄託された戦没学生の遺稿・遺品も含まれます。私家版はあつても、「きけ わだつみのこえ」のように世に知れることもなく、ご家族のもとでひそかに大切に、半世紀を超えて保存されてきた遺稿と、スペースの関係でふだん本郷の記念館では展示できない遺稿・遺品・遺影・関連資料・書籍、「戦没朝鮮人学徒兵」関連資料、「きけ わだつみのこえ」の一九四九年発刊以来の各版、関連ポスターなども、十八台のケースと壁面パネルを使って展示します。

同様に、ホールにおいては、学生・兵士たちが投げ込まれた戦場の実相を理解するために、館所蔵の映像ドキュメントを上映します。

学問への志、家族への愛、生きることをひたすら望みながら無念にも死んでいた青年たちの遺した言葉は、過去のものではなく、今に生きる私たちにひしひしと訴えるものがあります。二度とふたたびこのような悲劇がくり返されないことを願つて、今年も「わだつみのこえ記念館」による特別展示「戦没学生遺稿展」を開催します。

八月十三日（木）～十五日（土）の三日間、江戸東京博物館一階のホール・ロビーにおいて、記念館所蔵の戦没学生の遺稿・遺品に加えて、今日は無言館の協力を得て、戦没画学生の遺作品（レプリカ）三点を展示します。

記念館の所蔵品は、「きけ わだつみのこえ」に収録されている方々ばかりでなく、館ができるあとに寄託された戦没学生の遺稿・遺品も含まれます。私家版はあつても、「きけ わだつみのこえ」のように世に知れることもなく、ご家族のもとでひそかに大切に、半世紀を超えて保存されてきた遺稿と、スペースの関係でふだん本郷の記念館では展示できない遺稿・遺品・遺影・関連資料・書籍、「戦没朝鮮人学徒兵」関連資料、「きけ わだつみのこえ」の一九四九年発刊以来の各版、関連ポスターなども、十八台のケースと壁面パネルを使って展示します。

十三日は戦中を、十四日は戦後を考える構成になっています。

十五日（土）はホールに於いて、「今もつづく戦争」というテーマでお二人の講師の講演会を開きます。石島紀之氏の「空襲の二都物語」重慶と東京)、半田滋氏の「変わる自衛隊」とめどない日米一体化」。質疑応答を含めて五時閉会となります。

どうぞ、知人をお誘いください。

お出かけください。

記念館だより

Museum Wadatsuminokoe Newsletter

No. 3
2009. 7. 15

わだつみのこえ記念館

戦没学生遺稿展 8月13日(木)～15日(土)
今年も江戸東京博物館で特別展示会を開催



撮影／津布久 智

文京区ミューズネットに加盟
情報誌「スクエア」で紹介される

当記念館のある文京区には、たくさんの魅力ある博物館、美術館、庭園があります。

印刷博物館、永青文庫、お茶の水

折り紙会館、オルゴールの小さな博

物館、旧安田楠雄邸庭園、礒川、浮

野絵美術館、小石川後楽園、講談社・岡

書館、史跡湯島聖堂、竹久夢二美術

館、立原道造記念館、トーキョーワ

ンダーサイト本郷、東京大学総合研

究博物館、同小石川分館、同大学院

理学系研究科付属植物園、東洋学園

大学東洋学園史料室、東洋大学井上

円了記念博物館、東洋文庫、日中友

好会館美術館、日本サツカーミュ

ジアム、日本女子大学成瀬記念館、

鳩山会館、ファーブル昆虫館（虫の

詩人の館）、文京アカデミー、文京区

立本郷図書館鷗外記念室、文京ふる

さと歴史館、三菱史料館、野球体育

博物館、弥生美術館、六義園、これ

らを結ぶミューズネットに、昨年当

記念館運営へのお力添えを
維持会員・基金贊助会員

館も新規加盟が認められ、ケーブル

テレビやリーフレットで紹介された

ことで、地域の皆さんの来館も増え

てきています。さらに今年は七月六

日発行の「文京アカデミー スクエ

ア」一面に大きく紹介されました。

「学ぶ」とこと諦めいくさに散りし友だけやらぬ夜那覇すだく
いふの世もいくさに死すは若者ぞ記念館の静寂慟哭止まず
遺されしノートの余白「生きていたい」のつぶやき聞こゆわだつみのこえ記念館

わだつみのこえ記念館

兵の遺書文字薄らぎて六十年余白に籠もる情褪せぬまま

これをしも青春と呼ぶか「戦死公報アラバ開ケ」と遺書の上書き

おそらくは弾雨の下の走り書き二十歳の遺書の筆の掠れよ

人を愛す暇ありしか少年の生短かかりさ潮騒遠く

会いたくば我名を呼べと書き遺す学徒兵二十三歳嘉手納沖に死す

「学ぶ」とこと諦めいくさに散りし友だけやらぬ夜那覇すだく
いふの世もいくさに死すは若者ぞ記念館の静寂慟哭止まず

中條 雅夫

館も新規加盟が認められ、ケーブル
テレビやリーフレットで紹介された
ことで、地域の皆さんの来館も増え
てきています。さらに今年は七月六
日発行の「文京アカデミー スクエ
ア」一面に大きく紹介されました。
記念館運営へのお力添えを
維持会員・基金贊助会員

記念館を訪れて——若い世代のこえ

同世代の言葉に触れて

神宮司 真奈

私は今、大学院修士課程一年。毎日課題や修士論文に追われながら、初めての経験である後輩の勉強会講師や学部時代の友人と企画に試行錯誤を繰り返したり、好きな人と時間過ごしたり。悩んだり笑ったり、また不安もたくさんあるけれど、二歳という若さを武器に自分の心の赴くままに日々を過ごしている。

そんな中、ある日会員の高橋さんからこの原稿の依頼を受けた。すぐにもう一度じっくり記念館を見に行こうと思った。

私が「わだつみのこえ記念館」を初めて訪れたのは、大学三年の二月。とにかく頭がグルグルして、「わからない」という言葉で一杯だった。怒りなのか、悲しさなのか。目頭が熱くなつた。なんとも表現しがたい感情がわきあがって、亡くなつた人たちの言葉から必死に目をそらすまいとしていたのを覚えている。

今回改めて記念館を訪れて、あのときの感情の理由がわかつた気がする。「なぜこの人達が死なねばならなかつたのか」がわからなかつたのである。展示されている手紙や詩などを遺した人たちのほとんどが、當時私と同じ二〇代。決してみんな上官や国に洗脳されていたわけではない。ただ本音を押し殺して戦地にいる。「生きたい」、「学問をしたい」、

「愛する人と一緒にいたい」。どれもこれも当たり前の気持ちを抱きながら。

私は、今心のどこかで自分は死なないと思っている。もちろん、いつかはそのときが来るのだろうし、想像すると恐ろしいが、すぐにそんな心配は忘れる。しかし、当時の若者は死を背後に感じ、生きたいという当たり前のことを行なつてはいた。しかも、自分のことで精一杯になつてもおかしくない状況にありながら、みんな誰かを気にかけて想つていて。

でも、私はこの想いを美しいと言いたくない。生きたい人を、やり残したものがある人を、本音を押し殺して死に向かわせた「戦争」を認めたくないから。

この記念館に託された言葉は、「戦争」の意味だけでなく、人として大切なことに気づかせてくれる。私にとっても大事な場所となつた。私自身、毎日自分の人生をただ忙しく生きていくから「戦争のことを考えよう」というような偉そうなことは言いたくない。しかし、自分の人生をただ忙しく生きることは、当時の若者ができなかつたことだ。できる今に感謝しつつ、また戦争を繰り返さないために、今世界で起きている紛争にいつか終わらがくるように、自分の心に「平和の砦」を築きたい。こんなことに気づかせてくれた記念館にもつと多くの人に訪れてほしい。

(青山学院大学大学院修士課程)

朝鮮入学兵の遺念

池 映任

ある日、家の近くの本郷通りを散歩していたら、パタッと足が止まつた。「わだつみのこえ記念館(以下、記念館)」という青の看板が出ているところの前だつた。記念館の看板が出ている入り口は閑散としており、人通りは少ないよう見えた。どんな所だろうかと気になつたが、すぐに行く気にはならなかつた。

何日か経つてから、何かに導かれるように再び記念館の方に向かつている自分がいた。入館できる時間は午後からだつたにも関わらず、入館時間より早い時間に行ってノックをしてしまつた。入館準備のため、掃除中であつたが、やさしく迎え入れてくれた。マンションの中の一室を借りて設けられている記念館であった。戦争と関わる記念館と建物ー私の想像力の前提となつていてくれた。靖国神社と遊就館であるのは想像したが、想像したものとはずいぶん違う様子であった。

最初に目が留まつたのは「戦没朝鮮人学徒兵遺稿」コーナーであった。日本軍の捕虜監視員として泰緬鉄道に動員され、戦犯として処刑される前に残された遺書が紹介されてい

二分前まで書いたとされる。そこには「故国日本、朝鮮のいやさかを祈る」朝鮮人でありながら日本人でもあった自分の心情が綴られていてる。同時に「やつぱり死にたくない」という人間としての率直な気持ちも綴られている。彼は戦後、韓国では「対日協力者」として批判され、日本では外国人と扱われ、いかなる名誉回復もされないまま、その死の意味が曖昧になつていて。

一方、この記念館には朝鮮人の戦没学生以外にも日本人の戦没学生の遺書や日記も多数展示されており、苦しみながらも、一生懸命死の意味を問い合わせた日本人の戦没学生の苦悩を伺うこともできる。

最後に、「靈魂でもこの世の何処かに漂い度い、それができなければ誰かの想い出の中にでも残りたい」という趙文相の強いメッセージを忘れることはできない。こじんまりとしたこの記念館は靖国神社の莊嚴なる鳥居や遊就館の立派な建物よりも大きな感動と教訓を与えてくれた。

(日本学術振興財団外国人特別研究員
*1 趙文相の遺書 手記はウェブサイト「韓国・朝鮮人元BC級戦犯者に補償を」<http://kbsc.web.fc2.com/shogen/shogen1.html> (2009年7月2日確認) を参考とした。

21世紀「平和」への問い 「わだつみ」からのメッセージ

中村 俊佑

環境下には無邪気な大学生たちがたむろしている。私を含め、彼らは「戦争」を知らない。今日も授業、サボつちやつたー」という現代の典型的で大学生的な発言を聞くと、日本は平和だなあとつくづく思う。いや、彼らはこの平和的な状況を「平和」と感じなくなつてしまつて、あえてそれを問うという動きはあまり見られない。もちろん、自分たちと同じ年齢の学生たちが約七〇年前、学徒兵として動員され、様々な思いと矛盾を心に抱え、戦場に赴いたという事実は今の学生には想定外のことなのかもしれない。学校では一部の学生が問題意識を持って反戦・平和運動を行つてゐるが、彼らは全學生のこともしない。もちろん、自分たちと同じ一部で、むしろ、そのような活動をする者は異端視される傾向にある。こうした、戦争を体験していい世代によつて構成される極めて現代的な状況に危うさを感じてならない。「平和」への希求は全人類において全時代的に普遍的なものである。誰がよく報道されているように、「平和」は共時的・通時的に普遍的なものになり得ていい。私個人のやや独断的かつ楽観的な感覚から率直にすれば、今もどこかでテロによつて族、兄弟、友人、先生などを失った家族、兄弟、友人、先生などを失つて、戦争によつて愛する人や家

が多く報道されているように、「平和」は共時的・通時的に普遍的なものになり得ていい。私個人のやや独断的かつ楽観的な感覚から率直に言えば、戦争はやめようと思つたら明日からでもやめられるものであつた。大学といふいわば温室のようないでいた自分ももう大学生になつた。大学といふいわば温室のようないでいた自分ももう大学生になつた。大学といふいわば温室のようないでいた自分ももう大学生になつた。

零 墨

主張の講義のときだった。そこ
しながら「わだつみ」会の存在につ
いて知ったのは、昨年行われた東大
で、学徒出陣前の戦没学生による
様々な手記を拝見した。読後の正直
な印象は、どれも戦時中につくられた
に「反戦」の声を挙げた戦没者学
徒の手記が目立つたということだつ
た。その一方で、私は特攻に向かつ
た多くの学徒の遺書も拝見した。そ
こでは、「わだつみ」の遺稿集とは正
反対の、「個」が国家主義に絡め取ら
れ、どれもステレオタイプ化された
ことは多いが、ここでは、幕末から

といふもの、私自身、恥ずか
しいながら「わだつみ」会の存在につ
いて知ったのは、昨年行われた東大
で、学徒出陣前の戦没学生による
様々な手記を拝見した。読後の正直
な印象は、どれも戦時中につくられた
に「反戦」の声を挙げた戦没者学
徒の手記が目立つたということだつ
た。その一方で、私は特攻に向かつ
た多くの学徒の遺書も拝見した。そ
こでは、「わだつみ」の遺稿集とは正
反対の、「個」が国家主義に絡め取ら
れ、どれもステレオタイプ化された
ことは多いが、ここでは、幕末から

る。なぜなら、戦争は自然発生的な
ものではなく、人間の「精神」によ
つて作り出された産物だからであ
る。しかし、現実的に今も全世界的
に見れば、「平和」は実現し得ていな
い。なぜなのか。この問いに簡単に答
えを出すことはできないが、常に私自
身の問題意識の原点がここにある。

日本独特の精神主義的な手記が目立
つた。「きけわだつみのこえ」の後書
には「……本書は戦争に対する疑
惑・不信・批判・絶望の多くの記録
を挙げて、戦時下の日本学生一
般とは……軍国主義的に教育・形成
され、文字通りに「聖戦」を信じて
いた少なからぬ当時の学生たちの姿
とは、現象的にはややちがつたもの」
（小田切秀雄他『きけわだつみのこ
え』日本戦没学生手記編集委員会
一九四九）を集めたと記されている。

つまり、当時の学生の大半はむしろ、
後者の立場であり、前者の立場は少
数派であったようである。しかし、
重要なことは、当時の大半の学徒た
ちも「わだつみ」の遺稿集の学徒た
ちも本質的に大きく変わりはないと
いうことである。「わだつみ」の学徒
たちは監視の目を恐れながら、これ
らの手記を命がけで寄稿したことを見
たとえば明治初期の征韓論は、「現
状不満のエネルギーを対外進出に転
化」する試みであり、「満洲事変前
後の情勢と類似」しているとされる
（六三頁）。また、近代国家の権力は
民を精神的にも隸属させるという福
澤諭吉の指摘は、「廿世紀の独裁の基
礎」に関しても妥当するとし、そこ
にヒトラーの権力がかつての独裁権
力よりも強大である理由を見出して
いる。そこでは、「大衆はすみずみ迄
にメスを入れる画期的な研究を生み
出していくことになるのである。

明治初期を対象とするこの講義で当
時の情勢に言及している部分を紹介
したい。

たとえば明治初期の征韓論は、「現
状不満のエネルギーを対外進出に転
化」する試みであり、「満洲事変前
後の情勢と類似」しているとされる
（六三頁）。また、近代国家の権力は
民を精神的にも隸属させるという福
澤諭吉の指摘は、「廿世紀の独裁の基
礎」に関しても妥当するとし、そこ
にヒトラーの権力がかつての独裁権
力よりも強大である理由を見出して
いる。そこでは、「大衆はすみずみ迄
にメスを入れる画期的な研究を生み
出していくことになるのである。

大学で歴史を学んでいる以上、一度は訪ねなければと思い、ここへきて
た証を残し、伝えづけることは今
後同じ様な悲しみをうみださないた
めに必要な働きだと思います。でも、
世界では同じように、もつと幼い子
どもたちも兵隊として戦争にまきこ
まれていると考えると……。このわだ
つみの声が、多くの若者、世界の人々
に届くことを祈ります。（沖縄県二
〇代学生 09・5・18）

来館者の「感想ノート」より

争体験者の「生」の声を求めていか
なければならない。その意味で、今
こそ、戦争を次世代に伝える「わだ
つみ」会と「今」の学生との交流が
もっとなされ得る必要がある。

（早稲田大学人間科学部三年）

だろうと……。きっと日本もかわった
んだろうな、と思います。生きてい
た証を残し、伝えづけることは今
後同じ様な悲しみをうみださないた
めに必要な働きだと思います。でも、
世界では同じように、もつと幼い子
どもたちも兵隊として戦争にまきこ
まれていると考えると……。このわだ
つみの声が、多くの若者、世界の人々
に届くことを祈ります。（沖縄県二
〇代学生 09・5・18）

◎

資料を見て、戦争を行つた人のす
べてが、戦争に賛成だったわけでは
なく、反対だったということを知り
ました。手紙や日記の中で、自分の
本音を書いていて、今読むと、すご
いと思いました。また、戦争に反対
でも、実際には「反対」と言えなか
つたのは、その時代の流れがあつた
のだと再確認しました。そして、本
当に、戦争はひどいものだと思いま
した。病気で亡くなつたわけではな
くて、戦争で亡くなる遺書があるの
は本当に悲しいことだと思いました
た。今、外国で内戦などしているけ
れど、本当にやめてほしいです。（一
五歳学生 09・6・3）

館長・山下肇さんを悼む 高橋武智

わざか二年前に当館の館長を引き受けくださいり、開館のテープカットをされた山下肇さんが、昨年十月六日、虚血性心不全のため亡くなりました。享年八十八歳だった。

山下さんは「学徒出陣」約一年前の一九四一年秋、「学徒出陣」の先触れだつた「繰り上げ卒業」により、陸軍に入隊、三年間の軍務を本土で過ごされ、戦後は大学で教鞭をとられた。戦没学生を核とする戦中派「当事者世代」の強い自覚をもちつづけたご生涯だった。筆者は直接の師弟関係はないが、大学生わだつみ会員として一九五三年頃からご親交をいただいた。

わだつみ会が一九五八年に一旦解散したとき、たちに第二期の名を冠して呼ばれる会の再建に尽力された。とりわけ、六〇年前の一九四九年に刊行されたまま、入手困難になつてから約一〇年間にわたつては存在しなかつた。

五九年から約一〇年間にわたつては、山下肇さんのが、昨年十月六日、虚血性心不全のため亡くなりました。享年八十八歳だった。

短 信

◆集会報告

*わだつみ会との共催で、恒例の八・一五集会、二月一日「不戦の集い」を開き、今年に入つてからは「わだつみフォーラム」を二回開催しました。第四回「キムはなぜ裁かれたか」は、韓国・朝鮮人BC級戦犯問題が問いかけるもの（講師：内海愛子、四月二六日）、第五回「戦争」と『抒情』（講師：八柏龍紀、七月四日）で、第五回を除いて記録はいずれもわだつみ会の機関誌に掲載しています。ご希望の方は連絡下されば振替用紙を添えてお送りしますので、ぜひご購読ください（額価千円）。

◆来館者

開館から〇七年七月末までの来館者数は一〇二六名。それ以降の〇八年七月までは、江戸東京博物館で開催の約三千人（三日間）は別として、本郷まで足を運んで下さった方々は、一五八九名でした（前号で報告）。

昨年も八月の江戸東京博の遺稿展には四日間で約三千人が訪れました。それから本年六月までの来館者は合計五二八名です。

*ふだんの限られた開館日時（月・水・金の一時半から四時まで）をカバーするために、団体の場合は、土日でも開け、学芸員による解説も行っておりますので、遠慮なく事前にお申し込みください。

開館以来を振り返つてみると、学校関係では、津市白山中学、豊科高校JRC福祉クラブ、東京高校生平和ゼミ、共立女子中高校、東京女学院、大東文化大荒井ゼミ、青山学院大金ゼミ、NPO法人学生新人会の若い皆さん。一般では、東京マイコープ、仏子九条の会、浦和婦人の友讀書会、佐保会東京支部、テレビピアノの会、千葉教会、荻窪九条の会、国分寺新婦人、I女性会議富山支部、足立健康友の会、JR貨物労組、損保女性OB九条の会、弘道会安房支部、世田谷文芸クラブ、戦争体験を語り継ぐオフ会、三井住友九条の会、東京都障害者教育退職教員の会の皆さんが来館されました。

本年も多くの方々から来館の折りにご寄付をいただきました。「記念館維持会員」（一六〇人）「基金賛助会員」（四六人）の皆さんにも、財政を支えていただき感謝にたえません。

評判の悪い定額給付金ですが、有効に使いたいからと、わざわざ届けて下さったのは、韓国籍の若い研究者の方でした。運営諸経費は切りついで、第五回を除いて記録はいずれもわだつみ会の機関誌に掲載しています。ご希望の方は連絡下されば振替用紙を添えてお送りしますので、ぜひご購読ください（額価千円）。

*寄贈本

◆スタッフ紹介

ささやかですが、一階には図書コーナーがあり、閲覧の便宜をはかります（貸出は不可）。

このたび、楠裕次さん（本年一月一八日逝去）から、生前の約束によつて約九百冊の遺贈を受けました。楠さんはシベリア抑留者で、抑留関係の貴重な書がたくさん含まれているのはもちろんですが、戦争全般についても、雑誌を含めてたいへん貴重な蔵書をいただきました。

*安田武（一九八六年逝去）夫人からは学徒兵関連の本を中心四百余冊の寄贈を受けました。一九四三年の「学徒出陣」により陸軍入隊し、抑留生活を経て帰還。「学徒不戦の誓い」を提唱し、一九六〇年代のわだつみ会オピニオンとして著述活動をされた氏の蔵書によって、「学徒兵」関連の書架がいつそうの充実をみました。

◆お知らせ

このたび、楠裕次さん（本年一月一八日逝去）から、生前の約束によつて約九百冊の遺贈を受けました。杉本徳久、高橋武智、中條雅夫、常務理事岡安茂祐、渡辺總子、監事別府栄典、古藤晃、「わだつみのこえ記念館」は、館長とも忘れない。こうした関係がはぐくまれていたからこそ、会が年來なつて以後、遺稿遺品展の開催、さらにはわだつみのこえ記念館の開館も可能になったのだ。

ドイツ文学、とくにユダヤ思想にかんする研究業績や、ゲーテなど数々の翻訳文化賞に輝いた訳業についても触れないといけないのだが、この出版物の性格上、言及するだけにとどめる。

今までのご苦労に感謝しつつ、謹んでご冥福をお祈りします。

◆映像資料

ビデオ・DVDはまだ充実にほど遠い現状ですが、映画『きけ わだつみのこえ』をはじめ戦争関連のドキュメントなど視聴できます。

◆ご寄付

本年も多くの方々から来館の折りにご寄付をいただきました。「記念館維持会員」（一六〇人）「基金賛助会員」（四六人）の皆さんにも、財政を支えていただき感謝にたえません。

評判の悪い定額給付金ですが、有効に使いたいからと、わざわざ届けて下さったのは、韓国籍の若い研究者の方でした。運営諸経費は切りついで、第五回を除いて記録はいずれもわだつみ会の機関誌に掲載しています。ご希望の方は連絡下されば振替用紙を添えてお送りしますので、ぜひご購読ください（額価千円）。

◆スタッフ紹介

ささやかですが、一階には図書コーナーがあり、閲覧の便宜をはかります（貸出は不可）。

記念館を運営する「わだつみ記念館基金」の役員は次の方々です。

記念館だより 第3号
わだつみのこえ記念館

発行日 2009年7月15日 発行者 わだつみのこえ記念館

（〒113-0033 赤門アビタシオン1階
電話／F ax 03-3815-8571
E-mail wadatsuminokoe@nifty.com
郵便振替00180-3-612451